

# あすめしシビ「鶏肉の紙包み焼き」

管理栄養士 本田 直子

オープン用の紙（クッキングシート）で包んで焼きます。蒸し焼きにするので、底はカリッと香ばしく、上はふっくらジューシーに仕上がります。何が出てくるか開ける楽しさと、後片づけも楽にすみます。

## 材料■2人分

鶏むね肉	80g × 2枚
塩・コショウ	0.4g・少々
玉葱	50g
しめじ	20g
グリーンアスパラ	20g
パプリカ（赤）	20g

## ★ソース★

マヨネーズ	10g
味噌	5g



クッキングシート 適量（30cm × 25cm）

## 作り方■

- ① 鶏肉は1cm厚さのそぎ切りにし、塩・こしょうをふる。
- ② 玉葱・パプリカは薄切り、しめじは小房にわける。スナップえんどうは筋を取り、半分に切る。
- ③ クッキングシートを広げ、鶏肉の上に、玉葱・しめじ・スナップえんどう・パプリカを彩りよくのせ、マヨネーズソースをかけて包む。
- ④ 160～170℃に熱したホットプレート乗せ、蓋をして約10分焼く。

\* 鶏肉を鮭などの魚に変えたり、季節の野菜を入れて楽しんで下さい。

## 栄養量■1人分

エネルギー 188kcal 塩分 0.8g

# ふれあい

No.14 2011年7月

国保水俣市立総合医療センター



院長 坂本 不出夫

23年度、国保水俣市立総合医療センターでは、10名の医師、20名の新採用者を迎えスタートしました。地域医療を取り巻く厳しい状況の中で、未だ、常勤医を確保できない科があることを残念に思っています。

ところで、3月11日に発生した東日本大震災は大津波・原発事故という2次災害もあり未曾有の大災害となりました。医療センターでは災害医療チームを組織し北茨城において、医療活動を行ってまいりました。国家の危機という事態の中で少しでも貢献できたこと、そして使命感を持って活動に取り組みたいというスタッフが多くいることをうれしく思っています。今後も要請があれば対応していきたいと考えています。

また、医療センターでは定期的に「市民懇話会」を開催しています。水俣を中心とした地域医療を、皆さんと共に考えていく会です。

医療センターの状況を少しでも理解していただき、協力・応援していただければと思っています。多くの皆さんに参加していただくことを期待しています。

## 国保水俣市立総合医療センター

〒867-0041  
熊本県水俣市天神町1丁目2番1号  
TEL 0966-63-2101

URL <http://minamata-hp.jp/>

診療受付時間 午前 8時～午後3時まで

面会時間 平日 午前11時～午後1時

午後 3時～午後8時

休日 午前11時～午後8時

休診日 土・日・祝日・年末年始

## 交通のご案内 みなくるバス

停留所が病院の玄関前と浜グランド側にありますのでご利用下さい。

### 九州新幹線

新水俣駅から車で5分です。

### 肥薩おれんじ鉄道

水俣駅から徒歩15分  
車で5分です。



【院  
是】

# 仁愛

【病院理念】

- ・患者中心の医療
- ・安全で高度な医療
- ・地域との連携
- ・環境保全
- ・健全経営



入院中の患者様へお見舞いメールを書くことが出来ます。詳しくは、国保水俣市立総合医療センターのホームページをご覧ください。

<http://minamata-hp.jp/>

【ビジョン】 地域の中核病院として、急性期医療を中心に高度で安全な医療を提供するとともに経営的にも自立した患者に選ばれる病院を目指す

# 災害派遣医療チーム（DMAT）研修に参加しました

DMAT隊員になるべく、兵庫県立災害医療センターで4日間の研修をうけてきました。

災害派遣医療チーム（Disaster Medical Assistance Team）は、頭文字をとってDMAT（ディーマット）とよばれ被災地での広域医療搬送、病院支援、域内搬送、現場活動などをおこなう活動とします。

DMATは専門的な訓練を受けた医師・看護師等からなり、災害発生直後から活動できる機動性を備えた医療チームです。



負傷者が多数発生する災害現場では、DMATが消防や警察、自衛隊などの関係機関と連携しながら救助活動と並行して医療活動を行います。大規模な災害となれば、多くの負傷者に効率良く対応するため、どの負傷者を優先して治療するか、どの病院に搬送すべきかを判断する「トリアージ」も行います。

危険を伴う災害現場で隊員は、自身の安全を確保するために、被服・ヘルメット・保護靴などを装着し活動に従事します。

隊員の養成は、兵庫県神戸市にある災害医療センター等の日本DMAT隊員養成研修所で実施されており、この研修を修了後、厚生労働省に登録し、晴れて隊員となれます。



DMATの訓練の一つとして、瓦礫（がれき）の下の医療があります。

瓦礫等の障害物のために救出に時間のかかる要救助者に対して、レスキュー隊の指示に従い瓦礫の中にもぐりこみ、救出までの全身状態の安定化や痛みに対するコントロール、精神的サポートを行う事が目的です。



瓦礫の下の活動は、環境条件も悪く、活動が長時間になるため、非常に過酷な活動となり、悲惨な災害現場の中での活動でもあるため、精神力も必要となってきます。

現場での救出された救助者に対しての、トリアージ訓練もありました。現場での治療は通常の医療機関で行っている治療と違い、根治的治療ではなく、最大多数の傷病者を安全に病院に到着させることを可能にすることが目的となります。



その後の、広域搬送のための医療活動も、DMATチームの重要な活動の一つです。

輸送機を使った搬送は高度も高く、気圧も低いことも十分考慮しておかねばなりません。

医療環境がほとんど整っていない機内で、急変にも迅速に対応していく必要があります。

このDMAT隊員養成には全国各地から医師、看護師、その他の医療従事者が参加していました。先の震災の後ということもあって、皆さん熱い志で受講されており、とても濃厚な4日間でした。

今回は現場での救援活動として当院の外科医師1名、看護師2名、後方支援として臨床工学技士1名、放射線技師1名が養成所での研修を受けて参りました。

我々は当院で2チーム目のDMAT隊員となりました。

文献 持永 弓恵



## 入院患者アンケート結果

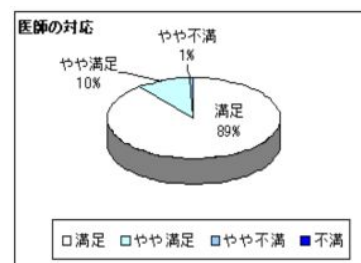
当センターでは、入院患者の皆様が病院での療養生活を快適に過ごしていただくためにどのようなサービス・設備などを必要とされているかについて検討をおこなっております。

今年も、多くの入院患者様のご協力のもと調査を実施することができました。

調査結果の一部を掲載いたします。

なお、この調査結果を踏まえ、より一層患者様に満足していただける病院を目指し、職員一同努力してまいります。

【担当医師について】



【病棟看護師について】

